



北東中だより

No.1

甲府市立北東中学校
令和2年4月21日

文責 渡 邊 豪

心をひとつに

4月1日に令和2年度の初日を迎え、本校職員一同4月6日の入学式、7日の始業式に向けて、新任職員を加えた新体制で、気持ちも新たにスタートしました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからず、4月5日には甲府市として、入学式を19日、始業式を20日に急遽延期しました。急な変更連絡でご迷惑をおかけいたしました。生徒の安全を最優先させた結果です。さらに、14日にも同様に、再度学校再開が延期になり、始業式を5月7日に、入学式を5月10日に実施することになりました。

その間4月8日から10日に教科書や学習課題等の配布。17日には新学級発表名簿や学級・学年通信、PTA関係資料等を郵送にて各家庭にお届けしました。20日・21日には、再度保護者の方にお願ひして、ワークなどの副教材等を中心に配付すると共に、各家庭からの提出書類を回収しました。その際に、お子さんの生活の様子などさまざまなお話をうかがうことができました。

振り返ってみると、昨年度、新型コロナウイルス感染拡大防止の措置のために、突然ともいえる全国一斉の臨時休業措置がとられ、3月3日の午後2時に下校してから、春休みも含めて2ヶ月以上の休みとなりました。生徒の皆さんは、この長い休業期間中に様々なことを学び、様々なことを考えたことでしょう。夜寝て、翌朝目を覚ますと、当たり前のようにいつもと同じ生活が始まる。私たちにとって、それは当たり前のことであり、そうではないことが起こるといことは、普段ほとんど意識していないと思います。



でも、世界の国々では、災害や戦争・紛争等で、朝起きたらいつも通りの生活ができなくなっている、ということが実際に起こっています。日本でも、近年の異常気象ともいえる天候のため、台風や大雨などによる災害が以前より多発していて、ある日突然避難所での生活を余儀なくされたり、学校や自宅が被害を受けて、当たり前だと思っていた「学校に通う」ということが、できなくなることが起こっています。幸い甲府市では、大きな災害に見舞われることもなかったので、今回の臨時休業は生徒の皆さんにとって、とても衝撃的であったと思います。

さて、生徒の皆さんは、いつ学校が再開してもいいように、さまざまな準備を整えていることと思います。その時に、決して忘れてはいけないことは、新型コロナウイルスの感染状況は、3月に臨時休業に入った時よりも拡大している、ということです。ニュースなどで報道されているとおり、東京都などの都市部では、多数の感染者が出ています。山梨県でも、日々感染者数が増加しており、今現在は、全国に緊急事態宣言が出されています。特に心配なのは、感染経路が不明である感染が、多数出てきている点です。学校が再開されるのであれば、その感染状況を見極めながらの再開になると思います。

先日配付した資料の中に、学校における新型コロナウイルスの感染防止対策に関わる資料があるので、よく読み、登校した際には学校内で感染が起こることが絶対に無いように、全員で気をつけていきましょう。

コロナウイルスの感染については今、日本は、危機的な状況になる手前まで来ています。ここからの、私たちの意識の持ち方と行動の仕方によって、2週間後、3週間後の私たちの生活が、一応穏やかに生活できる状況にあるのか、または諸外国のような本当に深刻な状況にあるのかが決まってきます。全員で感染拡大防止の高い意識を持って生活していきましょう。

たくわえるとき

今月19日は、「穀雨」でした。穀雨とは「種まきや田植えの時期に降る雨」とされています。この時期の雨は「百穀春雨」とも呼ばれており、あらゆる穀物を潤し、育てる恵の雨と考えられています。私たち人間が、新型コロナウイルスへの対応に腐心し、季節の移ろいをじっくりと感じる余裕もなく毎日をごろごろしている中で、自然は人間の営みとは関係なく、来るべき時期が来れば木々が芽吹き、若葉を広げ、また、多くの動物も活動を始めています。学校の周囲の山々も、4月1日には薄茶色だったのが、今では木々が芽吹き、葉を広げ、萌黄色になっています。

ここで、次の文章を紹介いたします。この文章は、現パナソニックを一代で築き上げた経営の神様とも呼ばれる、「松下幸之助」さんが記したものです。



【時を待つ心】

『何ごとをなすにも時というものがある。時、それは人間の力を越えた、目に見えない大自然の力である。いかに望もうと、春が来なければ桜は咲かぬ。いかにあせろうと、時期が来なければ事は成就せぬ。冬が来れば春はま近い。桜は静かにその春を待つ。それはまさに、大自然の恵みを心から信じきった姿といえよう。

わるい時がすぎれば、よい時は必ず来る。あせらずあわてず、静かに時の来るのを待つ。時を待つ心は、春を待つ桜の姿といえよう。だが何もせずに待つことは僥倖を待つに等しい。静かに春を待つ姿は、一瞬の休みもなく力をたくわえている。たくわえられた力がなければ、時が来ても事は成就しないであろう。

時を得ぬ人は静かに待つがよい。大自然の恵みを心から信じ、時の来るを信じて、着々とわが力をたくわえるがよい。着々とわが力をたくわえる人には、時は必ず来る。時期は必ず来る。

待てといわれればなおあせるのが人情である。だが、自然の理はわがままな人情には流されない。冷たいのではない。静かに時を待つ人には、暖かい光を注ぐのである。おたがいに時を待つ心を養いたい』

(「道をひらく」PHP 研究所刊より)

ただ待つのではなく、「時の来るを信じて、着々とわが力をたくわえる」「着々とわが力をたくわえる人には、時は必ず来る。時期は必ず来る」。日々の努力を怠らず、力をたくわえながら“その時を待つ”。まさに今の私たちがおかれている状況に近いものがありますね。

皆さんであれば、この臨時休業中に、「時の来るを信じて、着々とわが力をたくわえる」ということです。時間は、全員に平等に与えられています。その時間をどう使うか、どう使おうと努力するか。そこが大切です。

皆さんが臨時休業で登校できない間にも、体育館西側の桜は、今年も見事な花を咲かせました。桜は時が来るのを静かに待ち、時が来るとともに今年も一斉に花を咲かせました。皆さんは今、自宅でその時を待ちながら、さまざまな力を蓄えていることでしょう。時が来て、一気に花を咲かせることができるように……。

